【実行団体用】

事業完了報告書

提出日：　2023 年　4 月　10 日

1．事業概要

（1）実行団体名：社会福祉法人さぽうとにじゅういち
（2）事業名　：「一人も取り残さない」 ための包括的学習支援展開事業― 拠点型・アウトリーチ型・オンライン型学習支援を組み合わせて ―
（3）事業実施期間：2020 年 4 月～2023 年 3 月
（4）資金分配団体名：公益財団法人日本国際交流センター

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑　完了　／　☐　整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2）　整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☒　全て公開した　／　☐　一部未公開　／　☐　未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
（3）　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☐　変更があり報告済　／　☐　変更があったが未報告　／　☑　変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1） 社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（2） 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☑ 内部に窓口を設置 ／ ☐ 外部に窓口を設置 ／ ☐ JANPIA の窓口を利用
（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☐ はい ／ ☑ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。

（７） 団体の決算書類に対する会計監査はどのように実施しましたか。本事業の最終年度の状況を選択してください。（実施予定の場合を含む）
☐ 外部監査 ／ ☑ 内部監査 ※（複数選択可）
→上記で外部監査／内部監査を選択した場合、その実施者/実施時期を記載してください。 内部監査：当法人の監事３名により、2022 年 6 月に実施。
（８） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（１）シンボルマークの活用状況
☑ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☐ 広報制作物に表示している ☐ 報告書に表示している ／ ☐ イベント実施時に表示している ☐ その他 →「その他」を選択した場合は記載してください （自由記述）：

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	Eboard WEB マガジン「難民の子どもたちが抱える困難とは？」 https://info.eboard.jp/e-magazine/20220530.html 機関誌「自治体国際化フォーラム」400 号 現場レポート「「困ったときは、お互いさま」の精神をひきついで ～さぽうと 21 の活動の今、そしてこれから～」 https://www.clair.or.jp/j/forum/forum/articles/index-400.html https://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_400/09_shiminkokusai.pdf
広報制作物等	無	
報告書等	有	「さぽうと２１の活動の今、そしてこれから」 ・本事業の振り返り ・「親」へのインタビュー ・「後輩たちへ」 ※2023 年 5 月公開予定

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

■組織として強化された事項：

・オンライン型学習支援、アウトリーチ型学習支援の定着と実施体制の構築

新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、2020 年 4 月より急遽開始したオンライン型学習支援だったが、模索しつつ 3 年間の実績を経て、実施方法や体制が構築された。合わせて、当該事業をきっかけとして始まったアウトリーチ型学習支援についても、支援対象者のニーズに柔軟に対応できる体制が整いつつある。

・3 つの学習形態（拠点型、オンライン型、アウトリーチ型）を用いた支援

当該事業が始まる前までは拠点型学習支援のみであったが、オンライン型、アウトリーチ型の 3 つを併用したり、学習者環境により選択、変更したりしながら、支援対象者にとってより最適で効果的な学習環境を提供できるようになった。

・広報媒体の充実化（Facebook、Instagram）

当団体の広報手段はホームページと、年に数回発行するニュースレターのみであったが、当該事業を通して Facebook や Instagram を始動することができ、今までリーチできていなかった層へのアプローチが可能となった。

■新たに認識した課題：

・資金調達体制の脆弱性

上述の通り、組織として強化された事項を継続的・発展的に実施していくために人員の確保等、資金面での課題が浮き彫りとなった。当該事業により助成されている期間は良いが、終了後の資金調達については課題が残されたままである。

・緊急避難、緊急退避してきた外国ルーツ青少年（アフガニスタン、ミャンマー、ウクライナ等）への日本語学習支援等の対応

当該事業開始後の 2021 年より、ウクライナ、ミャンマー、アフガニスタン等から日本に避難・退避した人々の数が急増し、難民支援の団体として対応が迫られる突発的、かつ緊急度の高いケースが数多く発生した。どの国のケースも、学齢期にある小中学生、学業半ばで中断した若者が含まれる点が特徴である。特にアフガニスタンからの退避者は、その数も多く、支援の必要性は非常に高いが、支援体制の脆弱性は明らかであり、現状は日本社会の中で多くの子ども若者が取り残されつつあると言わざるをえない。早急な支援の必要性を感じている。

・新たに導入したシステムの有効活用

当該事業実施期間内に、より良い学習支援が行えるよう導入した受講者管理システム、広報手段としてスタートした Facebook、Instagram などが有効に活用できるよう、事業終了後の「継続」の努力が必要とされる。

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　5 枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を 5 枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）

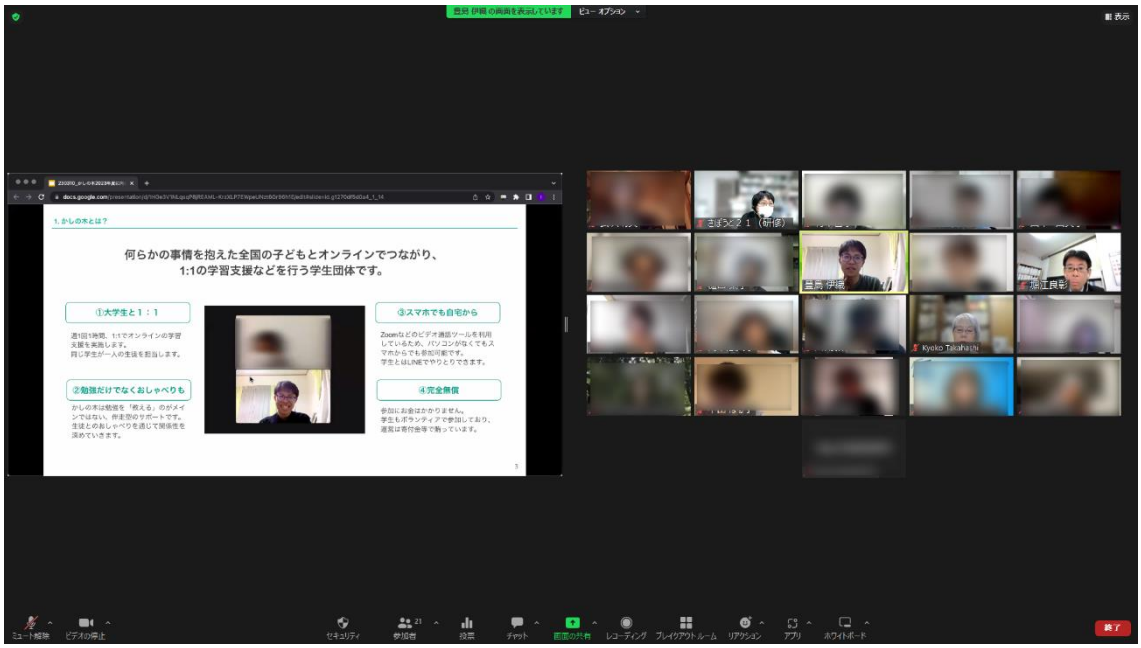
それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。

【添付資料】活動の様子が分かる写真（説明文）

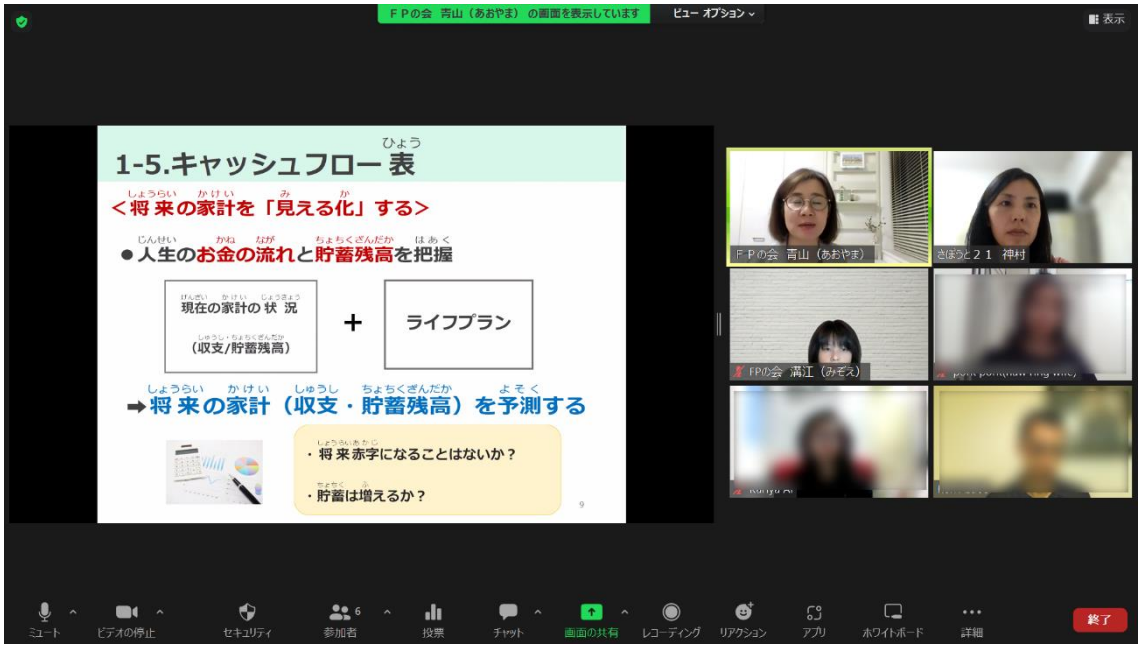
①ボランティア勉強会「さぽうと２ １ボランティアの他所での活動から学ぶ」

他所でも活動をしている学生ボランティアから話を聞き、活動の様子を学ぶ時間とした。様々な年代のボランティアが参加し、相互に交流できる有益な機会ともなった。



②学習者向け「生活勉強会」

2022 年度からの取り組みとして、学習者向け、特に 20 代・30 代の若い世代向けの生活勉強会を実施した。日本でこれから生活基盤を整えていく世代に対しては有益な学びの場となったようで、次回の開催を期待する声も多く聞かれた。

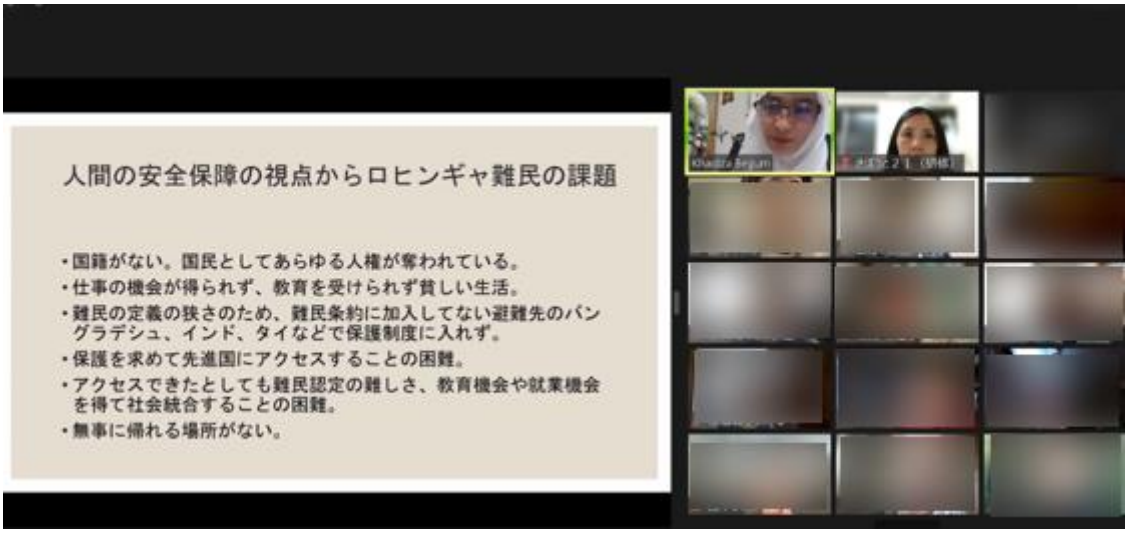


③DLA（JSL 対話型アセスメント）

対面型教室に参加している受講者を対象とした DLA を実施。アセスメントの実施者は当団体で行った勉強会・研修会の受講者である。

④事業報告会

3 ヵ年の事業を報告する会として、2023 年 3 月末にオンラインにて実施。当日は 56 名が参加し、第一部では事業の報告を、第二部ではロヒンギャ難民であるカディザ・ベゴム氏からロヒンギャ難民について、日本での暮らしについてお話を聞く機会となった。



日本国際交流センター(JCIE)

「外国ルーツ青少年未来創造事業」
（SYDRIS）

外国ルーツの子どもたちへの
学習支援事業報告会

オンライン＋対面
学習支援の可能性を
さぐりながら

2023年 3月31日（金）
19:30-21:30
オンライン（ZOOM）
お申し込みはこちら
https://forms.gle/gbZQbSiT2p4MkgbR9

【プログラム】 19:30-21:30

1 「「一人も取り残さない」ための包括的学習支援展開事業」のご報告

2 講演

「外国につながる子ども達にとっての教育～ロヒンギャの子ども達の場合～」

話し手：カディザ・ベゴム

聞き手：矢崎理恵

主催：社会福祉法人さぼうと２１
info@support21.or.jp /03-5449-1331

社会福祉法人さぼうと２１は、日本国際交流センター(JCIE)「外国ルーツ青少年未来創造事業」（SYDRIS）の助成を受け、2020年度から3か年にわたり、「「一人も取り残さない」ための包括的学習支援展開事業」を実施してまいりました。参加した学習者、支援者の方々からのご意見をうかがいながら、オンラインと対面（拠点型・アウトリーチ型）を組み合わせた学習支援のかたちを模索し続ける日々でした。
そして、この事業実施の中での学びを糧に、2022年2月1日、「ロヒンギャ難民二世対象のオンライン学習支援教室」をスタートさせるに至りました。群馬県館林市は、日本に暮らすロヒンギャ難民の集住地域です。長年、学習支援の必要性を感じながらも、支援者がなかなかみつからない地域で、「安定して」「持続可能な」学習支援の具体的な手だてを見つけることができずにいました。そのような地域に、今は50名以上の小中学生が学ぶ「オンライン上の学校」がつくられ、200名以上のボランティアの方に支えていただき、はや1年あまり、学びの機会を提供し続けることができました。
事業年度終了にあたり、「「一人も取り残さない」ための包括的学習支援展開事業」のご報告と、外国ルーツの子ども達が抱える困難を、ともに考える機会をもちたいと思います。

←事業報告会のチラシ

何らかの事情を抱えた全国の子どもとオンラインでつながり、
1:1の学習支援などを行う学生団体です。

1-5.キャッシュフロー表

＜将来の家計を「見える化」する＞

● 人生のお金の流れと貯蓄残高を把握

現在の家計の状況（収支/貯蓄残高） ＋ ライフプラン

➡ 将来の家計（収支・貯蓄残高）を予測する

・将来赤字になることはないか？

・貯蓄は増えるか？

人間の安全保障の視点からロヒンギャ難民の課題

- 国籍がない。国民としてあらゆる人権が奪われている。
- 仕事の機会が得られず、教育を受けられず貧しい生活。
- 難民の定義の狭さのため、難民条約に加入してない避難先のバングラデシュ、インド、タイなどで保護制度に入れず。
- 保護を求めて先進国にアクセスすることの困難。
- アクセスできたとしても難民認定の難しさ、教育機会や就業機会を得て社会統合することの困難。
- 無事に帰れる場所がない。